

2016年（平成28年）

9月2日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

8/11～8/24のNYMEX・WTIは、43.49～48.52ドルの範囲で、産油国協調による需給均衡への期待感等から、上昇基調で推移した。

8月25日は、前日に下げた反動の買い戻しやドルの先安観による思惑買いなどから、反発した。10月限は前日比0.56ドル高の47.33ドルで終了した。

週末26日は、イエレン連邦準備制度理事会（FRB）議長の利上げを示唆する発言を受けたドルの荒い値動きを反映して、上下に振れた後、ペーカー・ヒューズの米国内稼働石油掘削リグ数が前週比横ばい（406基）となり、8週連続の増加に歯止めがかかったことから、続伸した。10月限は、前日比0.31ドル高の47.64ドルとなった。

週明け29日は、サウジの8月の記録的高水準生産やイラクのルアイビ石油相の増産意向等の報道から、反落した。10月限は前日比0.66ドル安の46.98ドルとなった。

30日は、朝方メキシコ湾の熱帯低気圧による複数の石油・ガス会社の生産停止など、米国需給の引き締めへの期待から堅調に推移していたものの、早期利上げ観測に基づくドル高・ユーロ安の進行による原油の割高感や翌日発表の米原油在庫の増加予想報道等により、反落した。10月限は前日比0.63ドル安の46.35ドルで終了した。

31日は、EIAによる米国原油在庫の大幅増加の発表で、需給緩和感が広がり、3営業日連続で値下がりした。10月限の終値は前日比1.65ドル安の44.70ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（10月渡し）は、前々週と前週43.00～48.20ドルの範囲で、WTI同様、上昇傾向を示した。25日は45.80ドル、26日は46.10

ドル、29日は46.00ドル、30日は45.90ドル、31日は45.10ドルと40ドル半ばで小刻みに変動した。

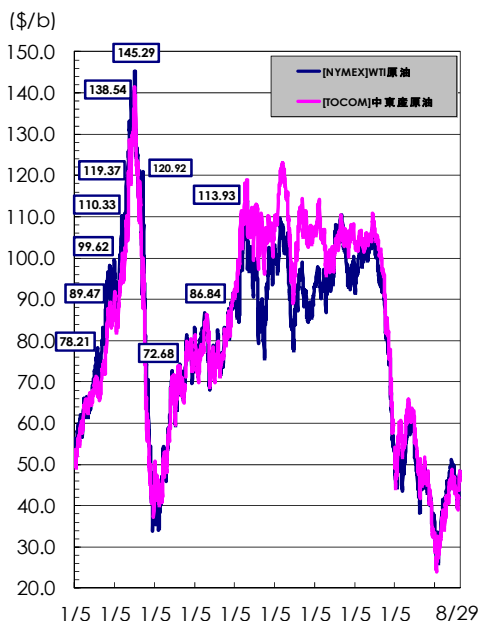
為替は、前々週と前週99.78～102.21円の範囲で小刻みに推移した。25日は100.51円、26日は100.50円、29日は101.85円、30日は101.95円、31日は103.8円と円安方向に推移した。

財務省が30日発表した貿易統計速報（旬間ベース）によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比230円高の31,170円/kl。ドル建てでは46.87ドルで前旬比0.77ドル高。為替レートは1ドル/105.74円。

主要元売会社の9月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きと1.0円の値上げに分かれた。原油は値上がりし、為替の円高でやや相殺されたものの、原油コストは値上がりした。

そのような中で、8月29日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値上がりの122.2円、軽油は0.2円値上がりの102.2円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは10週振りの値上がり、軽油は10週振りの値上がり、灯油は3週振りの横ばいだった。この週の原油コストは値上がり、元売の卸価格は2.0～3.0円の値上げだった。

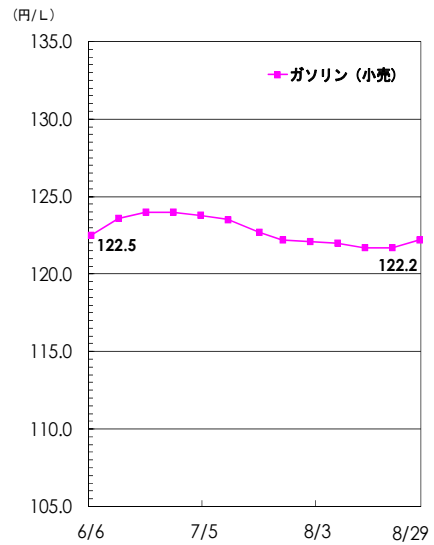
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/21 ~ 8/27	3,749 ▼ -6	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.3 ▼ -0.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/27	14,629 ▼ -5	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/ bbl)	8/29	46.74 ▼ -0.58	▼ -1.9
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	8/29	46.98 ▼ -0.07	▼ -2.2
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	8月上旬	46.87 ▼ -0.77	▼ -12.17
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	31,170 ▲ 230	▼ -14,933
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.74 ▼ -2.49	▲ 18.41
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/29	102.85 ▼ -1.22	▲ 19.33



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/21 ~ 8/27	1,160 ▲ 18	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,106 ▲ 54	▲ -	
	輸出	"	20 ▼ -48	▼ -	
	在庫	8/27	1,626 ▲ 34	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/23 ~ 8/29	43.7 ▲ 2.0	▼ -8.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/23 ~ 8/29	41.0 ▼ -0.3	▼ -7.6
		(TOCOM/中部)	8/29	40.8 ▼ -0.8	▼ -9.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/29	122.2 ▲ 0.5	▼ -13.5	

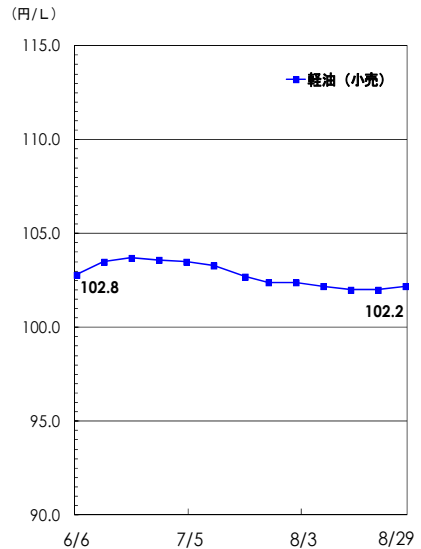
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

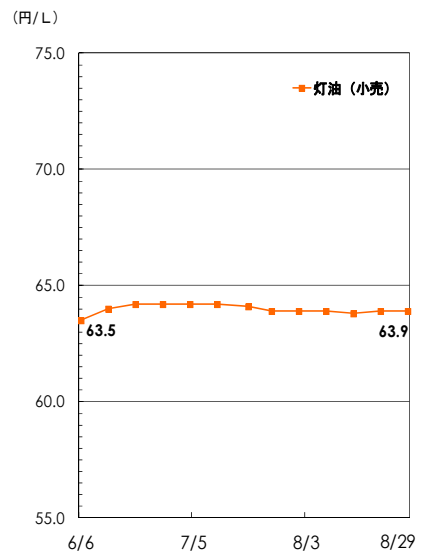
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/21 ~ 8/27	784 ▼ -118	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	662 ▲ 176	▼ -	
	輸出	"	280 ▲ 94	▲ -	
	在庫	8/27	1,759 ▼ -158	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/23 ~ 8/29	38.5 ▲ 0.3	▼ -6.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/23 ~ 8/29	39.2 ▼ -0.3	▼ -4.9
		(TOCOM/中部)	8/29	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/29	102.2 ▲ 0.2	▼ -12.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/21 ~ 8/27	220 ▼ -1	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	132 ▲ 64	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -17	▶ -	
	在庫	8/27	2,535 ▲ 88	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/23 ~ 8/29	37.1 ▲ 0.8	▼ -9.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/23 ~ 8/29	40.8 ▲ 2.5	▼ -5.7
		(TOCOM/中部)	8/29	39.5 ▲ 2.1	▼ -9.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/29	63.9 ▶ 0.0	▼ -17.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

31日のNYMEX市場のWTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の発表した週間統計で、米国原油在庫が市場予想(90万バレル増)を大幅に上回る増加(230万バレル増)、ガソリン在庫も市場予想(120万バレル減)を下回る減少(70万バレル減)だったことから、国内供給の過剰感により3営業日続落した。また、26日のイエレン発言以降の米国の利上げ観測によるドル高基調も、原油の割高感を拡大した。取引の中心限月である10月限の終値は前日比1.65ドル安の44.70ドル、11月限の終値は前日比1.68ドル安の1バレル45.31ドルだった。

EIAによると、8月29日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比4.4セント値上りの1ガロン2.237ドル(60.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.9セント値上りの2.409ドル(64.7円/ℓ)。ガソリン、軽油とも2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、8月21日～27日に休止したトッパー能力は、3.7万バレル/日と前週に比べて0.7万バレル増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は374.9万klと、前週に比べ0.6万kl減少。前年に対しては2.2万klの減少。トッパー稼働率は88.3%と前週に対して0.1ポイントの減少、前年に対しては1.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.6%増、ジェット/10.6%増、灯油/0.6%減、軽油/13.0%減、A重油/1.4%増、C重油/12.9%減。今週のC重油の輸入は7.5万kl(前週比3.3万kl増)。軽油の輸出は28.0万kl(前週比9.4万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではC重油のみが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、ジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格の値上がりが続く、小売価格は10週振りの値上がりとなったが、ガソリンの出荷は110.6万kl(対前週5.1%増)と2週振りに前週比で増加、2週連続で前年比で増加となり、9週連続で100万klを超えた。

ジェット13.5万kl(対前週86.5%増)、灯油13.2万kl(対前週93.8%増)、軽油66.2万kl(対前週36.3%増)、A重油20.1万kl(対前週25.1%増)、C重油24.4万kl(対前週2.2%減)。

(単位:千KL)

	今週 (8/21 ~ 8/27)	前週 (8/14 ~ 8/20)	前週比	
ガソリン	1,106	1,052	▲ 54	(5%)
ジェット燃料	135	72	▲ 63	(88%)
灯油	132	68	▲ 64	(94%)
軽油	662	486	▲ 176	(36%)
A重油	201	161	▲ 40	(25%)
C重油	244	250	▼ -6	(-2%)
合計	2,480	2,089	▲ 391	(19%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月27日時点の在庫はガソリン、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、灯油、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは162.6万kl、前週差3.4万kl増。前年に対しては0.1万kl多い。

灯油は253.5万kl、前週差8.8万kl増。前年に対しては8.8万kl多い。

軽油は175.9万kl、前週差15.8万kl減。前年に対しては2.2万kl多い。

A重油は76.9万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては3.4万kl少ない。

C重油は206.6万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては13.0万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (8/27)	前週 (8/20)	前週比	
ガソリン	1,626	1,592	▲ 34	(2%)
ジェット燃料	1,070	1,132	▼ -62	(-5%)
灯油	2,535	2,447	▲ 88	(4%)
軽油	1,759	1,917	▼ -158	(-8%)
A重油	769	790	▼ -21	(-3%)
C重油	2,066	2,033	▲ 33	(2%)
合計	9,825	9,911	▼ -86	(-0.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月23日から8月29日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円安だったが、原油価格の値下がりの影響のほうが大きく、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン97円台、軽油38円台、灯油36～37円台でやや高めに推移した。海上スポット価格は、ガソリン94～96円台、軽油39～40円台、灯油35～36円台で後半にかけ値を上げた。先物価格はガソリン94～95円台、軽油39円台、灯油40～41円台で灯油を中心にやや値上がりである。元売の卸価格はガソリンで2.0円から3.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは9月1日、3日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、据え置き旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストの値上がりによる卸価格の上昇により、製品スポット市況は、一般的に堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、9週連続で100万klを超え引き続き好調である。

9月第1週(9月1日～9月7日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月23日～8月29日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.0円、灯油は0.8円、軽油は0.3円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.7円の値上がり、先物価格は、ガソリンが0.3円、軽油が0.3円の値下がり、灯油が2.5円の値上がりだった。原油コストの値上がりに伴い、一般的に値上がりとなった。

9月第1週の大手元売の卸価格は、据え置きと1.0円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (8/23～8/29)	前週 (8/16～8/22)	前週比
スポット価格	レギュラー	43.7	41.7	▲ 2.0
	灯油	37.1	36.3	▲ 0.8
	軽油	38.5	38.2	▲ 0.3
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値][平均]		今週 (8/23～8/29)	前週 (8/16～8/22)	前週比
先物価格	レギュラー	41.0	41.3	▼ -0.3
	灯油	40.8	38.3	▲ 2.5
	軽油	39.2	39.5	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/23～8/29実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.0	▼ -0.3	▲ 0.9
灯油	▲ 0.8	▲ 2.5	▲ 1.7
軽油	▲ 0.3	▼ -0.3	➡ 0.0
A重油	▲ 0.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月29日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値上がりの122.2円、軽油は前週比0.2円値上がりの102.2円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは10週振りに値上がり、軽油も10週振りに値上がり、灯油は3週振りの横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは37都道府県、横ばいは4県、値下がり6県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県の117.0円(前週比0.3円安)、次が埼玉県117.8円(前週比1.3円高)だった。最高値は長崎県の131.2円(同0.4円高)だった。都道府県別で最も値上

がりしたのは前週比2.4円高の群馬県(119.3円)、最も値下がりしたのは前週比0.4円安の愛媛県(124.5円)だった。

原油コストは値上がりで、10週振りで小売価格は値上がりした。原油価格の値下がりが円高を上回り、原油コストはやや値下がりしたが、前週の元売会社の卸価格値上げが進むと見られることから、次週の小売価格は、値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			
		今週 (8/29)	前週 (8/22)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	122.2	121.7	▲ 0.5	08/8/4 185.1
	灯油	63.9	63.9	➡ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	102.2	102.0	▲ 0.2	08/8/4 167.4

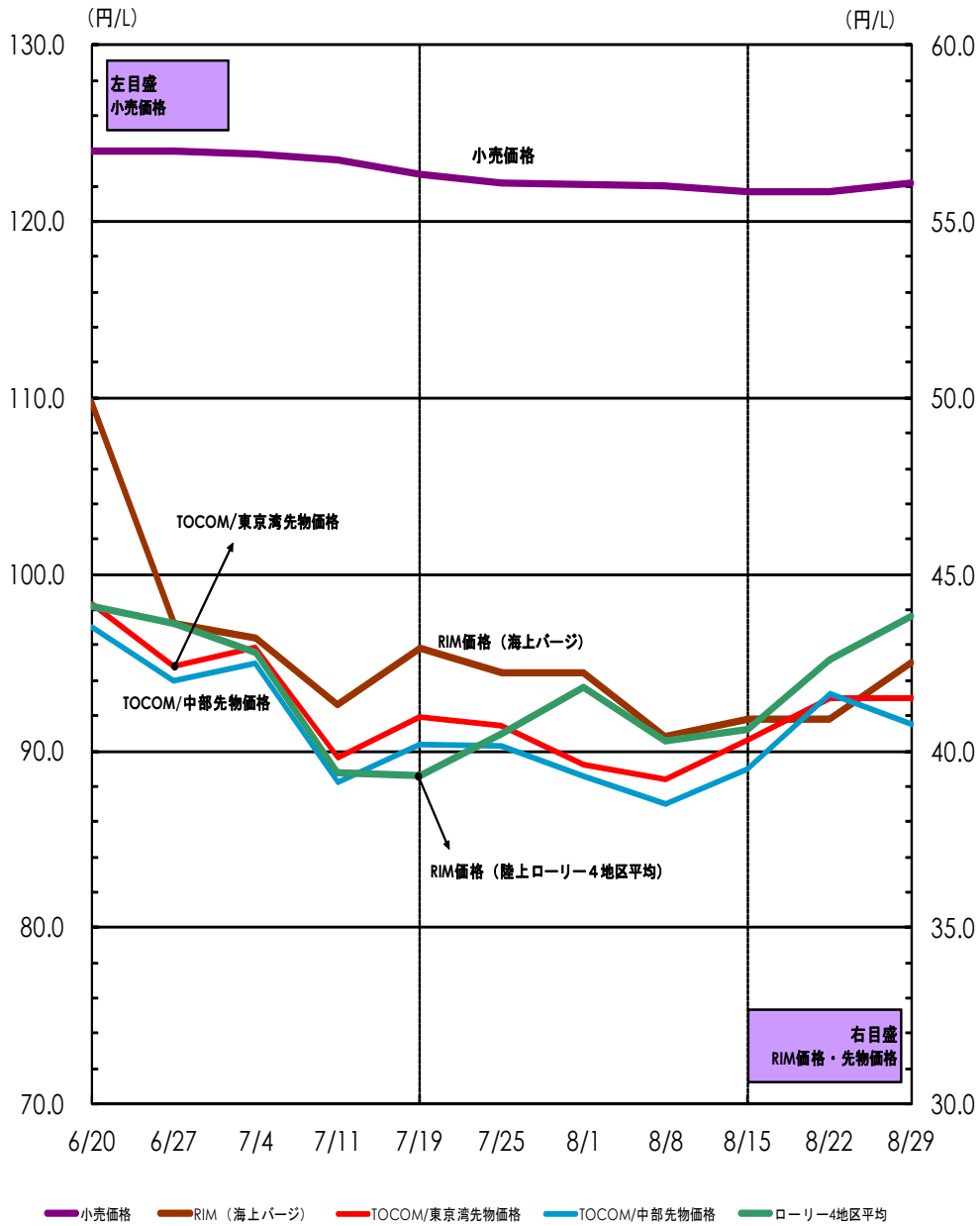
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/6/20 ~ 2016/8/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第22号)の公表は、9/9(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。